宇宙核物理連絡会（仮称）準備会および本会議事録

日時：2008 年 3 月 26 日（水）13:00-15:40
場所：近畿大学 Ｂ館 601 号室

出席者（順不同、敬称略）：
宇都宮（甲南大理工）、小澤（筑波大）、加藤（北大理）、梶野（天文台）、
神沢（早大理工）、久保野（東大 CRIB）、高久（阪大 RCNP）、本林（理研仁科センター）、
山口（東大 CRIB）、米田（理研仁科センター）、嶋（阪大 RCNP）

Ⅰ．準備会議事録

１．出席者自己紹介

２．この会を設置するに至った経緯について宇都宮氏より説明があった。

３．2007 年 12 月の OMEG07（於北大）の際に行なわれた意見交換会の発言録の内容について確認が行なわれた。特に JINA（米）の活動内容に関しての確認と、本会発足後の連携の可能性について議論がなされ、前向きに検討することで合意を得た。

４．本会の趣旨、目的等について確認のための議論が行なわれ、宇宙核物理分野における研究戦略を協議し推進するための母体となること、及び研究活動を支え人材育成を図ることを会の趣旨とすることでコンセンサスを得た。

５．上記２～４を踏まえ、本会を正式に発足させることが承認された。
これを以って、第１回宇宙核物理連絡会（仮称）に移行した。

Ⅱ．本会議事録

１．本会規則について宇都宮氏より提案があり、議論が行なわれた（承認事項は別紙に掲載）。

２．会員資格について宇都宮氏より提案があり、議論が行なわれた（承認事項は別紙に掲載）。

３．役員に関する規則および候補者について宇都宮氏より提案があり、議論の結果、第一期役員として下記の方々が承認された。

(1) 代表：　宇都宮弘章氏（甲南大理工）

(2) 幹事：　西村俊二氏（理研仁科センター）、嶋達志（阪大 RCNP）

(3) 運営委員：

加藤幾芳氏（北大理）、梶野敏貴氏（天文台）、久保野茂氏（東大 CRIB）、藤田佳孝氏（阪大理）、宮武宇也氏（KEK）、本林透氏（理研仁科センター）、嶋達志（阪大 RCNP）　　以上７名

なお、各役員の構成員は、当面上記の方々とするが、本会の活動を進める中で、必要となった場合は適宜更新、追加等を行なう旨が了承された。幹事の役割について議論があり、副代表的な役員ではなく会の事務を行なう役員であることが確認された。

４．本会の名称について議論した結果、「宇宙核物理連絡協議会」とすることが承認された。

５．本会の綱領について宇都宮氏より提案があり、議論した結果、条文形式ではなく前文形式を採る可能性も含め、運営委員が再度検討し、文章化することが承認された。

６．本会のホームページを甲南大学のサーバー上に設置することが承認された。

７．本会主催の研究戦略ワークショップの計画案が検討された。その結果、

(1) 研究戦略上の重要課題のひとつと考えられる「超新星爆発と r プロセス元素合成」に関する第１回研究戦略ワークショップの開催が宇都宮氏から提案され、秋の物理学会（山形大学）でのシンポジウムとして開催を企画するか別途理研等で開催することが承認された。

(2) 第２回以降の研究戦略ワークショップのテーマについては、運営委員で５月

に会合を持ち議論することになった。

８. 今後の物理学会での本会のインフォーマルミーティングの開催方法について議論が行なわれた。

９. 加藤氏から、北大で準備中の新学術領域申請に対する原子核物理分野からの協力の可能性について検討を求められたが、時間の都合により未審議となった。

１０. その他

出席者からのコメントとして

・研究分野の方針について自由に意見を言える雰囲気が良かったので、これを維持しつつ、早期に軌道に乗せて欲しい
・単なる講演の寄せ集めのワークショップではなく、研究戦略の議論に重点を置いたワークショップを開いて欲しい
・重要と思われる（複数の）研究テーマを具体的に検討できる場として期待する
・たとえば QGP の研究グループとの接点を広げて行きたい
・ 隣接分野からの参加者を増やすように努力するべき

等が挙げられた。

（2008 年 3 月 30 日作成、文責　嶋）